

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 7 月 29 日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|---|-------|------------|
| 事業所番号 | 2171000645 | | |
| 法人名 | 医療法人社団 鼎会 | | |
| 事業所名 | グループホーム 郡上八幡バラの家 | | |
| 所在地 | 岐阜県郡上市八幡町中坪初音140-1 (電話) 0575-66-2188 | | |
| 評価機関名 | NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと | | |
| 所在地 | 各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル | | |
| 訪問調査日 | 平成20年7月24日 | 評価確定日 | 平成20年9月16日 |

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

城下町の中心地から少し離れ、森を背にした静かな住宅地の中にホームがある。介護度が1・2の利用者が多く、明るく穏やかな雰囲気の中で、利用者同士の会話が弾んでいる。事業者が取り入れた計算ドリルでは、無気力な表情が改善され積極性が生まれるなど、目に見える成果が顕れている。職員は、離職者がほとんどなく、グループホームに期待される馴染みの関係が維持されている。また、外部研修にも積極的に参加し、学習意欲も旺盛であり、昨年度は6名が介護福祉士の資格を取得している。地域とは密接な交流があり、AED（自動体外式除細動器）の設置拠点とするなど、地域に開かれ、地域の一員として理念の実現化に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 前回評価での改善課題であった理念を共有するための取り組みでは、ミーティングの場で周知するように徹底している。家族への報告では、電話によることが中心なので書面による報告形態を検討している。地域防災連絡網には、自治会長が組み入れられている。 |
| | 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 自己評価では、近隣との密着度の濃い交流、運営推進会議の開催回数が少ないこと、AED（自動体外式除細動器）の設置拠点としての広報、利用者個々の経験や性格・個性を把握した支援のあり方、夜間避難訓練の方法など、課題を認識し、改善に努めている。 |
| 重点項目② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議では、事業運営報告、介護保険制度の現状と課題、地域高齢者の現状、家族からの意見、疑問に対する回答などについて、討議されている。自己評価・外部評価も討議の対象として、活発な意見が交わされている。また、年3回の会議開催回数では少ないと、行政より指摘されているので、増やす方向で検討している。 |
| | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 家族が訪問した際に、直接意見を聴いて対応した事例がある。運営推進会議でも出席家族から意見が出され、速やかに改善につなげている。苦情受付の書式もあり、記録し対処方法を検討する仕組みがある。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 自治会に加入し、祭り準備の協力や地域行事に積極的に参加している。地域のボランティア団体のメンバーが、利用者の入浴日に訪れ、ドライヤーで髪を乾かしたり、話し合い手をしている。週毎に音楽療法士の訪問、月毎に大正琴の演奏会、保育園児も定期的に訪れている。 |

【情報提供票より】 (平成 20 年 6 月 1 日 事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|------------------------|--------|
| 開設年月日 | 平成 16 年 4 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 16 人 | 常勤 14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 | 15.5 人 |

(2) 建物概要

| | | |
|------|--------|-------|
| 建物構造 | 木造 造り | |
| | 1 階建ての | 1 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|-----------------|----------|------------|-----------|---|
| 家賃(平均月額) | 30,000 円 | その他の経費(月額) | 13,200~ 円 | |
| 敷金 | 無 | | | |
| 保証金の有無(入居一時金含む) | 無 | 有りの場合償却の有無 | 有 / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり | | 1,200 円 | |

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 6 月 1 日 現在)

| | | | | | |
|-------|---------|---------|-----|------|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 2 名 | 女性 | 16 名 |
| 要介護1 | 8 名 | 要介護2 | 7 名 | | |
| 要介護3 | 2 名 | 要介護4 | 1 名 | | |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 85 歳 | 最低 77 歳 | 最高 | 93 歳 | |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|------------------------|
| 協力医療機関名 | 郡上市民病院、八幡病院、堀谷医院、俊歯科医院 |
|---------|------------------------|

2. 評価結果（詳細）

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 地域社会の一員として、馴染みの人達と共に、喜びと誇りを持ち安心した暮らしを支えるための理念を掲げている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 職員採用時には、理念の周知と理解を図っている。また、定例会議やミーティングで話し合い、共有し、利用者に寄り添いながら日々の暮らしを支えている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会に入会し、祭りの準備や、年間行事にも積極的に参加している。近隣の人々とも交流があり、保育園児の訪問や、話し合い手のボランティア、音楽療法士、大正琴演奏ボランティアも訪れている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価及び外部評価は、全職員が会議に参加し、取り組むべき改善課題は、事業所内の担当委員を中心に検討し、改善に取り組んでいる。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|--|----------------------|--|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は、年3回行われ、事業所の運営報告、地域での高齢者の課題、介護保険制度の理解、家族の質問等についての検討が行われ、相互理解が広がっている。 | ○ | 開催回数は、増やす方向で検討されているので、その取り組みに期待したい。 |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市からの介護相談員を毎月1回受け入れている。高齢福祉課、地域包括センターとも連携しており、介護認定の課題等で、助言を得ている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | バラ通信を3ヶ月毎に発行し、配布している。家族への個別の連絡は、訪問時や電話で報告しているが、十分な意思の疎通が取れない場合がある。 | ○ | 毎月、請求書が送付されているので、それとともに個別の暮らし振りを、書面で報告することが望ましい。 |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族の訪問時に、洗面周りの汚れを指摘されたことがある。運営推進会議でも家族から様々な意見が出されている。それらの意見、苦情に対しては速やかに解決するための仕組みがある。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | ユニット間の異動はあるものの、離職者は少なく雇用が安定している。異動の場合は、引継ぎは時間をかけて行い、利用者へのダメージを防止している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部評価には積極的に参加し、認知症介護実践研修や中堅職員研修の受講が多く、その成果を、事業所内研修に取り入れている。昨年度は、介護福祉士の資格取得者が6名誕生した。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市内の同業者へ職員を派遣し、ケアを実践しての交流を行っている。互いの特徴を学びながらサービスの向上に活かしている。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 本人が納得するまで、何度でも見学してもらっている。職員も馴染めるように、言葉かけや雰囲気作りに配慮している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 本人の生活歴を把握し、できること、得意なことは職員と一緒に取り組んでいる。掃除や後片付けには、几帳面に、率先して行う利用者があり、職員も他の利用者も触発され、支えあって生活している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者の多くは、ホームで暮らすことを肯定的に受け止めているが、家の周りの雑草が気になりな人、家族の面会が少ないなどの思いを持っている。希望に応じ、自宅付近のドライブを支援している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 毎月のケア会議で、本人の課題や状況を職員間で話し合い、本人・家族とも話し合いながら、介護計画に反映させている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画は、3ヵ月毎に見直しを行っている。状態に変化があれば、本人・家族・関係者と話し合い、随時見直し、新たな介護計画を作成している。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 医療連携24時間体制の支援がある。通院の支援、入院した場合は早期退院の支援を行っている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時より、かかりつけ医のある利用者には、家族が受診に同行しているが、家族の都合が悪い時は、ホームが受診支援を行っている。多くの利用者は、当法人の医師が、かかりつけ医となっている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 現段階では、重度化した場合は、病院への入院となっているが、管理者は、終末期ケアの研修を受講し、全職員で勉強会を重ねている。ホームでできること、できないことを見極める方針である。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 年長者として敬い、言葉遣いでは、常にプライドに気配りしている。記録類は利用者・家族の目に触れない事務所に保管されている。バラ通信への写真の掲載は、家族の許可を得ている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者それぞれの個性を尊重し、暮らしを支援している。散歩の好きな人、家事の好きな人、趣味などのほか、計算ドリルに熱中する人が多く、表情の活性化に繋がっている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 1週間の内、木・日曜日が調理の日となっており、食材の買い物から準備、配膳片付け等を職員と一緒にしている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 週3回の入浴を支援している。順番でのトラブルの防止、職員との相性にも配慮している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 毎週訪れる、音楽療法、毎月の大正琴の演奏、地元ボランティアによる入浴後の髪乾燥、話し合い手になってもらうのが楽しみとなっている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 利用者には、できるだけ外出の機会を提供している。散歩、買い物、喫茶店、ドライブを楽しんでいる。外出の困難な利用者には、玄関前に椅子を置いて外気に触れる機会を支援している。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中、玄関は開放されている。非常口は、センサーで出入りが把握されている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を実施している。また、地域防災の非難訓練にも参加している。事業所にはAED(自動体外式除細動器)を常備しており、地域へ情報を発信している。 | | |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養摂取やバランスには、管理栄養士が関わっている。利用者1人ひとりの症状に合わせた献立、味付けが提供され、摂食量の記録管理がされている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居間や廊下には、手づくりの作品が飾られている。玄関前には8脚の椅子があり、利用者の団欒の場となっている。畳のコーナーや、牛乳パックで作った手づくりソファも廊下に設置されている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には、手づくりの塗絵や花で飾られている。馴染みの古い家具や仏壇を持ち込んでいる利用者もある。 | | |

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。